

特集 **5**

電機連合 「ウィズ・アフターコロナ社会の ワークスタイルとキャリア に関する調査」

調査の実施概要 (抜粋)

1. 調査の目的

新型コロナウイルス感染症の影響により、私たちの生活や働き方は大きく変容するなかで、これらの変化の実態と課題に着目するテーマとして、「ウィズ・アフターコロナ社会のワークスタイルとキャリア」に関する意識について調査を実施した。

(中略)

3. 調査の方法

①調査対象組合と対象者

政策委員組合の組合員(7,000名)を対象としている。各組合の配布数は、規模に応じて割り当てを行った。

②調査の方法

紙の調査票とWEBによる回答を併用した。

紙の調査票は、電機連合から調査対象組合に調査票と回収用封筒を直送し、回収は、単組本部→(グループ労連)→電機連合で行った。

また、WEBによる回答については、調査対象組合にURLとQRコードを配付し、各組合から組合員個人に配布を依頼した。

調査票の配布およびWEB調査の開始は2021年10月、回収は10~12月である。

③回収サンプル

回収締切日までに提出された有効調査票は6,393件で、有効回収率は91.3%である。

有効回答の回答形態割合は、調査票回答が38.7%、WEB回答が61.3%である。

「ウィズ・アフターコロナ社会のワークスタイルとキャリアに関する調査」報告書 目次

はじめに	第4章 ウィズ・アフターコロナの働き方
調査の実施概要	第5章 在宅勤務
調査結果の概要	第6章 労働組合について
第1章 回答者のプロフィール	ウィズ・アフターコロナ社会の働き方
第2章 仕事について	についての希望と課題(自由記入)
第3章 労働時間	

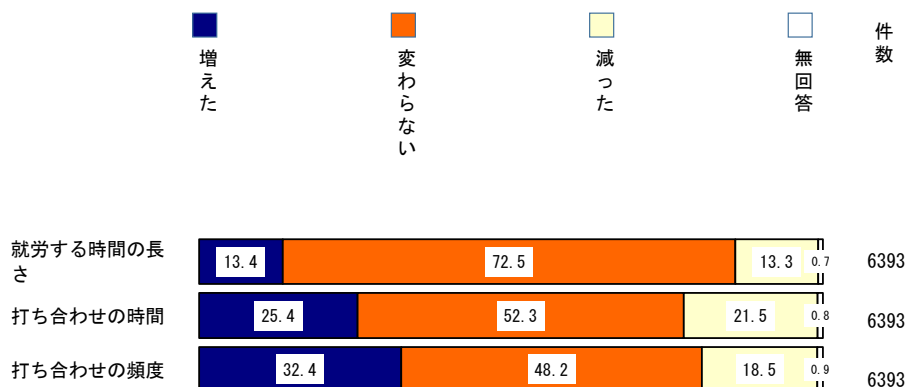
第4章 ウィズ・アフターコロナの働き方

1. 仕事の進め方の変化

－ 5割前後が「打ち合わせの時間」「打ち合わせの頻度」に変化あり－

新型コロナウイルス感染症の流行前と比べた現在の仕事の進め方の変化についてみると、「就労時間の長さ」は「変わらない」が7割強を占めるが、「打ち合わせの時間」と「頻度」が「変わらない」はそれぞれ52.3%、48.2%にとどまり、5割程度が変化を実感していることが明らかとなった。「増えた」割合をみると、「打ち合わせの頻度」が32.4%と最も多く、「打ち合わせの時間」は25.4%、「就労時間の長さ」は13.4%である。一方の「減った」をみると、「就労する時間の長さ」は13.3%と「増えた」とほとんど変わらないが、「打ち合わせの時間」(21.5%)と「打ち合わせの頻度」(18.5%)はいずれも「増えた」に比べて少ない(第4-1図)。

第4-1図 新型コロナウイルス感染症の流行前と比べた現在の仕事の進め方の変化(総計)



性別では目立った違いはないが、女性は「就労する時間の長さ」が「増えた」が2割近くと男性をやや上回る(第4-1表)。

職種別にみると、技能・生産関連では、いずれも「変わらない」が他の職種に比べて多く「就労する時間の長さ」が8割近く、「打ち合わせの時間」「打ち合わせの頻度」は6割前後を占める。

「増えた」の割合に注目すると、「打ち合わせの時間」は営業で3割強、「打ち合わせの頻度」は営業と技術で4割前後と技能・生産関連や事務に比べて多くなっている。また、「就労する時間の長さ」は技能・生産関連や技術に比べて、事務と営業で多く、特に女性の営業では3割近くと他の女性や男性の営業を上回る。

第4-1表 新型コロナウイルス感染症の流行前と比べた現在の仕事の進め方の変化

	就労する時間の長さ				打ち合わせの時間				打ち合わせの頻度				件数	
	増えた	変わらない	減った	無回答	増えた	変わらない	減った	無回答	増えた	変わらない	減った	無回答		
総計	13.4	72.5	13.3	0.7	25.4	52.3	21.5	0.8	32.4	48.2	18.5	0.9	6393	
男性計	12.1	73.4	13.8	0.7	25.8	52.3	21.1	0.7	32.9	48.0	18.3	0.8	5026	
年齢別	29歳以下	14.7	73.3	10.8	1.2	21.4	59.9	17.5	1.2	29.4	54.1	15.3	1.2	931
	30～39歳	13.0	72.1	14.5	0.4	29.0	49.6	20.8	0.5	37.0	45.3	17.1	0.6	1938
	40～49歳	11.6	73.7	13.8	0.9	26.4	51.3	21.4	0.9	32.6	47.3	19.3	0.9	1333
	50～59歳	8.5	76.2	15.2	0.1	23.2	51.2	25.3	0.3	28.4	48.7	22.7	0.3	789
職種別	技能・生産関連	10.0	78.7	10.5	0.8	16.9	60.4	21.8	1.0	21.5	57.1	20.4	1.0	1406
	事務	14.8	68.7	15.7	0.8	29.4	45.1	24.8	0.8	35.8	41.6	21.7	0.9	654
	営業	18.3	65.1	15.8	0.8	31.9	45.1	22.2	0.8	40.4	39.4	19.4	0.8	747
	技術	10.8	74.5	14.2	0.5	29.4	51.0	19.1	0.5	38.2	46.3	15.0	0.5	2006
女性計	18.6	69.1	11.4	0.9	23.9	52.3	22.5	1.3	30.7	48.3	19.8	1.3	1270	
年齢別	29歳以下	18.9	67.2	12.1	1.9	22.6	53.6	21.7	2.2	30.0	48.9	18.9	2.2	323
	30～39歳	18.0	66.5	14.6	0.9	28.8	48.4	21.8	0.9	37.3	44.3	17.4	0.9	316
	40～49歳	17.4	73.4	8.6	0.5	20.6	54.2	24.0	1.3	26.6	49.0	23.2	1.3	384
	50～59歳	20.2	69.1	10.3	0.4	24.0	53.6	21.9	0.4	28.8	52.4	18.5	0.4	233
職種別	技能・生産関連	13.3	78.7	6.9	1.1	12.8	63.8	21.3	2.1	17.6	60.6	19.7	2.1	188
	事務	18.7	68.6	12.2	0.5	22.1	52.1	25.0	0.7	28.0	49.7	21.6	0.7	583
	営業	27.4	57.3	14.0	1.2	34.1	39.6	25.0	1.2	42.1	34.1	22.6	1.2	164
	技術	17.2	69.3	11.7	1.7	29.7	50.7	17.6	2.1	39.3	43.8	14.8	2.1	290

※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す
 ※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す

第4-2表は、在宅勤務日数別に仕事の進め方の変化をみたものである。在宅勤務は行っていない層では、[就労する時間の長さ]が「変わらない」が8割、[打ち合わせの時間]と[打ち合わせの頻度]が「変わらない」が6割前後を占め、いずれも在宅勤務をしている層に比べて多い。一方、在宅勤務を3日以上している層では、[打ち合わせの時間]と[打ち合わせの頻度]が「増えた」が多くなる。特に週4日以上在宅勤務をしている層では、[打ち合わせの頻度]が「増えた」が5割を占める。また、[就労する時間の長さ]についても、在宅勤務日数が多いほど「増えた」が多くなり、週4日以上在宅勤務した層では2割台半ばを占める。

第4-2表 新型コロナウイルス感染症の流行前と比べた現在の仕事の進め方の変化

	就労する時間の長さ				打ち合わせの時間				打ち合わせの頻度				件数	
	増えた	変わらない	減った	無回答	増えた	変わらない	減った	無回答	増えた	変わらない	減った	無回答		
総計	13.4	72.5	13.3	0.7	25.4	52.3	21.5	0.8	32.4	48.2	18.5	0.9	6393	
在宅勤務日数	在宅勤務は行っていない	9.7	80.4	9.1	0.8	16.2	61.6	21.2	1.0	19.8	58.6	20.5	1.0	2383
	週1日	10.3	75.9	13.4	0.4	24.4	53.2	22.0	0.5	32.4	49.2	18.0	0.5	1326
	週2日	12.8	70.0	16.2	1.0	26.5	47.9	24.6	1.0	34.7	43.6	20.6	1.1	796
	週3日	13.7	65.2	20.3	0.8	34.3	41.9	23.0	0.8	46.7	35.7	16.8	0.8	630
	週4日	24.7	58.4	16.3	0.6	38.7	41.9	18.8	0.6	50.3	35.1	14.0	0.6	527
	週5日	25.3	58.2	15.9	0.6	42.0	38.8	18.6	0.6	49.6	34.8	14.8	0.8	655

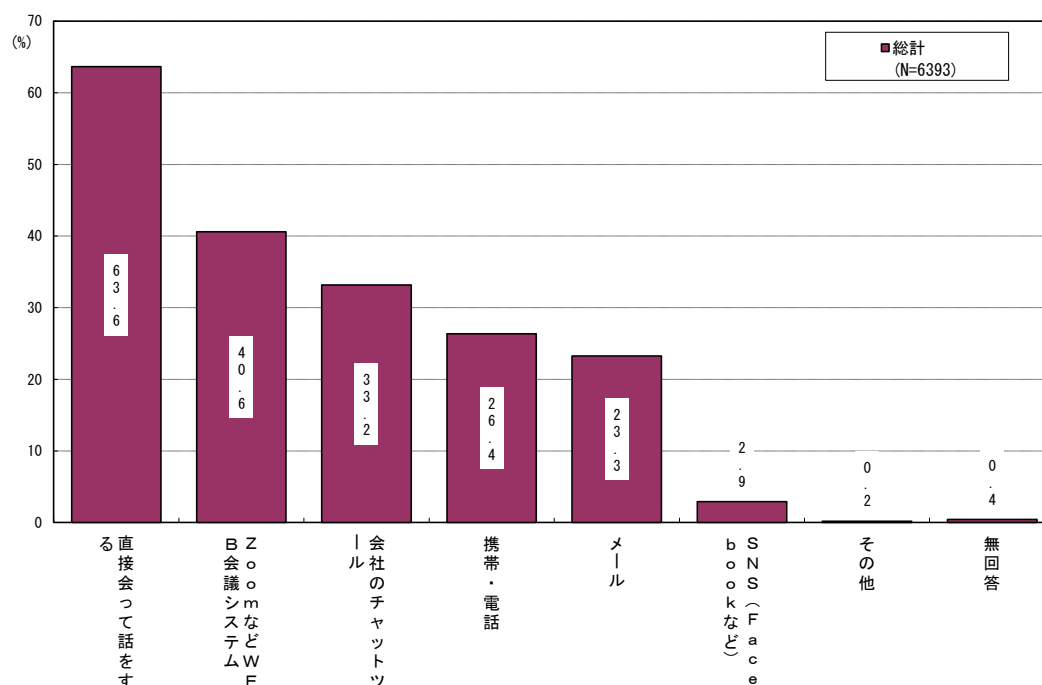
※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す
 ※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す
 ※濃い網かけ数字は「総計」より15ポイント以上多いことを示す

2. 日頃のコミュニケーション方法

－「直接会って話す」が6割強でトップ、

事務や技術を中心に「WEB会議システム」や「チャットツール」を活用－
日頃の職場のメンバーとのコミュニケーションの方法（2つ以内選択）では、「直接会って話をする」が63.6%と最も多く、これに「ZoomなどWEB会議システムを通じて話をする」（40.6%）が4割、「会社のチャットツールを通じてやり取りをする」（33.2%）と「携帯・電話などで話をする」（26.4%）が3割前後、「メールを通じてやりとりをする」（23.3%）が2割強で続いている。なお、「SNS（Facebook、LINEなど）を通じてやり取りをする」は2.9%とごくわずかにとどまった（第4-2図）。

第4-2図 日頃、職場のメンバーとのコミュニケーション方法（2つ以内選択）



性別で見ると、「直接会って話をする」は男女ともに最も多いが、男性 65.3% に対し、女性は 57.3% と男性が女性を 8 ポイント上回る。「携帯・電話」も男性で比率が高い。一方、女性は「会社のチャットツール」でも 47.2% と 5 割近くを占め、男性を 18 ポイント上回っている（第 4-3 表）。

年齢別では、男性はいずれの年齢層でも「直接会って話をする」が最も多いが、「会社のチャットツール」は、40 代以上に比べて 30 代以下で多い。一方、「メール」は年齢が高い層ほど多く 50 代では 4 割近くを占める。女性については、30 代で「会社のチャットツール」と「Zoom など WEB 会議システム」が 5 割前後を占め、他の年齢層に比べて多い。

職種別にみると、技能・生産関連では男女ともに「直接会って話をする」が 9 割近くと圧倒的に多い。その他の職種については、事務と技術を中心に「会社のチャットツール」の比率が高く、女性の技術では 6 割強を占める。また、男性の事務と技術、女性の営業と技術で「Zoom など WEB 会議システム」、男女の営業で「携帯・電話」の比率が高くなっている。

第 4-3 表 日頃、職場のメンバーとのコミュニケーション方法（2 つ以内選択）

	直接会って話をする	BZ 会議システム	Zoom など WEB	携帯・電話	会社のチャットツール	Skype (Face)	SNS (Facebook)	メール	その他	無回答	件数
総計	63.6 ①	40.6 ②	26.4	33.2 ③	2.9	23.3	0.2	0.4		6393	
男性計	65.3 ①	41.2 ②	27.8	29.7 ③	2.8	23.3	0.1	0.4		5026	
年齢別											
29歳以下	70.0 ①	35.7 ②	29.9	31.6 ③	3.1	17.5	0.2	0.2		931	
30~39歳	63.3 ①	44.8 ②	29.1	32.1 ③	2.3	20.0	0.1	0.4		1938	
40~49歳	67.0 ①	40.8 ②	26.3	27.6 ③	3.5	25.2	...	0.6		1333	
50~59歳	62.5 ①	40.1 ②	24.7	25.1 ③	2.5	35.0	0.4	0.3		789	
職種別											
技能・生産関連	86.3 ①	22.5 ②	31.7 ②	12.0 ③	5.3	25.2 ③	0.1	0.5		1406	
事務	53.8 ①	52.0 ②	20.5 ③	37.6 ③	1.7	26.3	...	1.2		654	
営業	59.4 ①	41.0 ③	51.0 ②	19.8 ②	2.3	18.7	0.1	0.3		747	
技術	56.3 ①	51.7 ②	18.1 ③	43.4 ③	1.1	23.0	0.1	0.1		2006	
女性計	57.3 ①	38.2 ③	20.6 ②	47.2 ②	3.5	22.5	0.6	0.5		1270	
年齢別											
29歳以下	60.4 ①	41.5 ③	23.2	43.7 ②	1.9	19.8	...	0.3		323	
30~39歳	48.7 ②	48.1 ③	21.2 ③	53.2 ①	2.2	17.1	0.6	0.9		316	
40~49歳	63.5 ①	30.2 ③	18.5 ③	45.1 ②	4.4	28.6	0.5	...		384	
50~59歳	56.2 ①	32.2 ③	19.7 ③	47.6 ②	6.0	23.6	1.3	0.4		233	
職種別											
技能・生産関連	85.6 ①	16.0 ③	16.5 ③	25.5 ②	8.0 ②	19.1 ③	1.1	1.1		188	
事務	55.7 ①	34.8 ③	20.9 ②	50.8 ②	2.9	27.1	0.5	0.2		583	
営業	49.4 ①	46.3 ②	39.0 ③	37.8 ③	2.4	17.1	0.6	1.2		164	
技術	43.8 ③	55.2 ②	14.1 ③	61.4 ①	1.4	19.7		290	

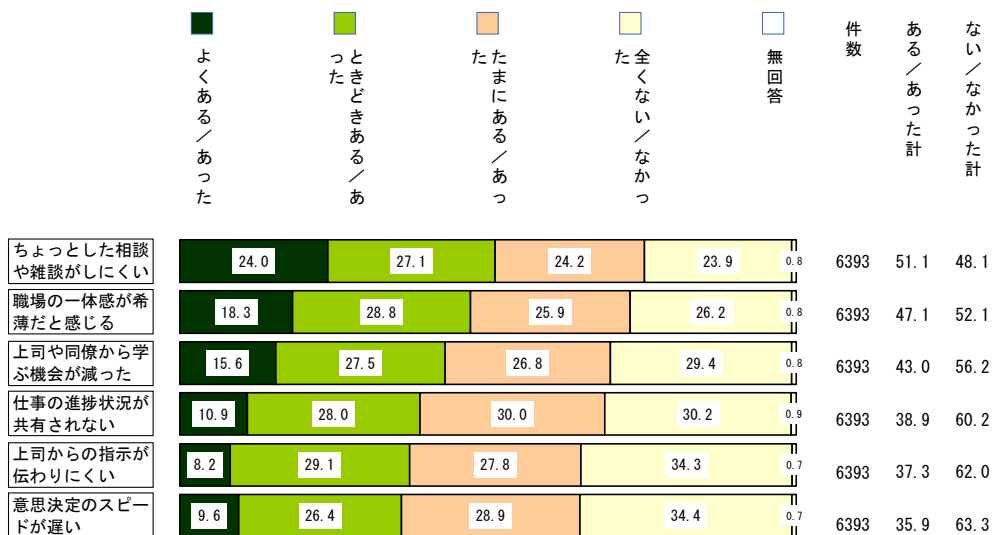
※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す
 ※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す
 ※濃い網かけ数字は「総計」より15ポイント以上多いことを示す
 ※丸数字は比率の順位(第3位まで表示)

3. 職場の変化

－ 5割前後が「ちょっとした相談や雑談がしにくい」「職場の一体感が希薄」－

第4-3図は、新型コロナウイルス感染症の流行前と比べた6つの職場の変化について、「よくある／あった」から「全くない／なかった」の4段階でたずねた結果である。「よくある／あった」と「ときどきある／あった」を合わせた＜ある／あった＞比率をみると、「ちょっとした相談や雑談がしにくい」(51.1%)と「職場の一体感が希薄だと感じる」(47.1%)が半数前後、[上司や同僚から学ぶ機会が減ったとを感じる](43.0%)、[仕事の進捗状況が共有されない](38.9%)、[上司からの指示が伝わりにくい](37.3%)、[意思決定のスピードが遅い](35.9%)は4割前後を占める。

第4-3図 新型コロナウイルス感染症の流行前と比べた、職場の変化（総計）



性別では目立った違いはない（第4-5表）。

年齢別に＜ある／あった＞比率をみると、男性は「ちょっとした相談や雑談がしにくい」と「職場の一体感が希薄だと感じる」は29歳以下に比べて30代以上で多くなっている。その他の変化については、50代でやや比率が低い。女性については、30代以下で＜ある／あった＞が多い項目が多く、「ちょっとした相談や雑談がしにくい」は6割近く、「仕事の進捗状況が共有されない」が4割台半ばを占め、40代以上に比べて多くなっている。

職種別にみると、男女ともに営業ですべての変化について＜ある／あった＞比率が高く、特に女性で比率が高い。一方で技能・生産関連ではすべての変化について＜ある／あった＞の比率は低い。そのほか、男性の事務で「上司からの指示が伝わりにくい」、女性の技術で「ちょっとした相談や雑談がしにくい」「上司や同僚から学ぶ機会が減った」が他の職種に比べて多くなっている。

第4-5表 新型コロナウイルス感染症の流行前と比べた、職場の変化<ある/あった>比率

	伝わりからにくい指示が	意思決定のスピード	共有されにくい状況が	仕事や進捗から学	上司や同僚が減った	薄達と感	職場の一体感が希	やちよつとした相談	件数
総計	37.3	35.9	38.9	43.0	47.1	51.1	6393		
男性計	37.4	35.9	39.1	43.3	47.7	50.6	5026		
年齢別									
29歳以下	35.6	37.6	36.8	44.0	<u>39.1</u>	<u>45.8</u>	931		
30～39歳	40.2	37.7	42.7	46.9	51.1	53.6	1938		
40～49歳	38.6	36.5	40.1	41.7	50.2	51.7	1333		
50～59歳	<u>30.9</u>	<u>28.9</u>	<u>31.6</u>	<u>36.2</u>	45.8	47.3	789		
職種別									
技能・生産関連	<u>28.9</u>	<u>30.3</u>	<u>31.2</u>	<u>29.8</u>	<u>38.5</u>	<u>36.1</u>	1406		
事務	45.1	40.8	43.0	45.0	49.7	55.4	654		
営業	45.6	45.0	49.0	54.8	57.7	59.4	747		
技術	37.7	34.9	39.9	47.6	50.0	56.0	2006		
女性計	36.9	36.1	38.3	42.4	44.4	53.7	1270		
年齢別									
29歳以下	44.9	44.3	44.0	50.2	46.7	59.1	323		
30～39歳	37.7	36.7	44.3	45.3	45.9	57.3	316		
40～49歳	32.3	32.6	<u>33.1</u>	<u>36.2</u>	<u>39.3</u>	46.9	384		
50～59歳	32.6	<u>29.2</u>	<u>30.5</u>	38.2	48.5	53.6	233		
職種別									
技能・生産関連	25.0	23.4	26.1	24.5	29.3	31.4	188		
事務	35.0	34.1	35.3	39.5	<u>41.9</u>	53.3	583		
営業	57.3	51.8	61.8	59.8	62.2	72.0	164		
技術	38.3	40.0	39.3	51.4	50.7	61.0	290		

※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す
 ※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す
 ※濃い網かけ数字は「総計」より15ポイント以上多いことを示す

(中略)

4. 今後働きたい場所

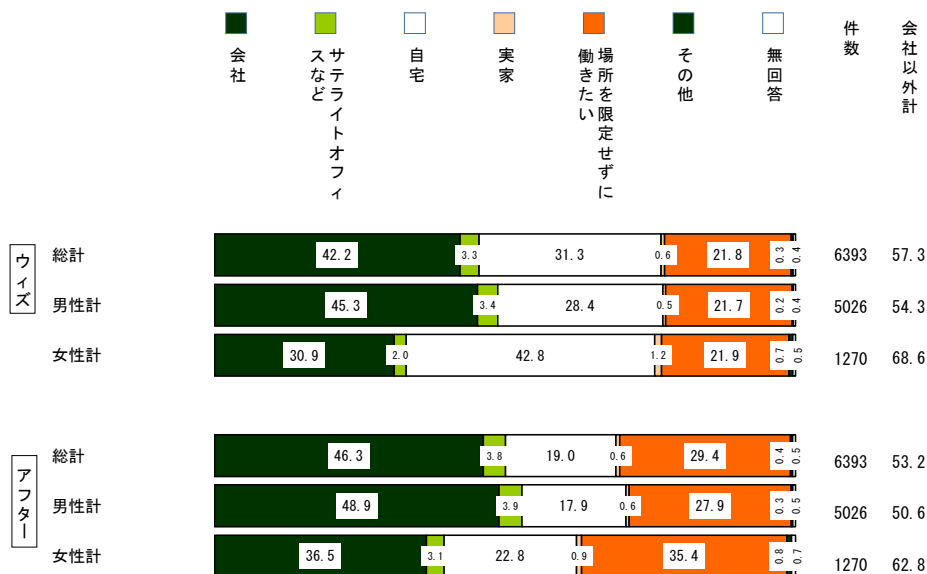
－＜会社以外＞はウィズコロナで57.3%、アフターコロナでも53.2%－

今後、働きたい場所について、ウィズコロナ、アフターコロナそれぞれたずねた結果をみると、ウィズコロナは「会社」(42.2%)が4割強と最も多い。それ以外では、「自宅」(31.3%)が3割強、「場所を限定せずに働きたい」(21.8%)が2割強を占めるが、「サテライトオフィス、シェアオフィス」(3.3%)や「実家」(0.6%)はごくわずかにとどまった。＜会社以外＞の割合は57.3%である(第4-4図)。

アフターコロナについては、「自宅」が19.0%とウィズコロナよりも少ない一方で、「会社」(46.3%)と「場所を限定せずに働きたい」(29.4%)はウィズコロナを上回っている。＜会社以外＞は53.2%で、ウィズコロナをわずかに下回るものの、過半数に及んでいる。

性別で比較すると、ウィズコロナ、アフターコロナともに、「会社」は男性が女性を、「自宅」は女性が男性を上回っている。＜会社以外＞の割合はウィズコロナ、アフターコロナともに女性の方が男性に比べて10ポイント以上多い。また、ウィズコロナでは「場所を限定せずに働きたい」が男女問わず2割強を占めるが、アフターコロナでは、女性が35.4%と男性(27.9%)に比べて多くなっている。

第4-4図 今後の働き方として、主に働きたい場所



年齢別にみると、男女ともに29歳以下で「場所を限定せずに働きたい」が3割前後と多く、40代以上で「会社」の割合が多くなる。＜会社以外＞の割合は、男性30代以下で6割前後、女性30代以下では8割近くと、いずれも40代以上に比べて多い（第4-7表）。

職種別にみると、技能・生産関連で「会社」が多く、男性で7割弱、女性で6割を占める。その他の職種については、営業で「場所を限定せずに働きたい」がほぼ3割を占め、他の職種に比べて多くなっている。

第4-7表 今後の働き方として、主に働きたい場所 ウィズコロナ

	会社	サテライトオフィス	自宅	実家	場所を限定せずに	その他	無回答	件数	会社以外計
総計	42.2	3.3	31.3	0.6	21.8	0.3	0.4	6393	57.3
男性計	45.3	3.4	28.4	0.5	21.7	0.2	0.4	5026	54.3
年齢別									
29歳以下	38.5	3.1	30.0	1.1	27.1	0.2	0.1	931	61.4
30～39歳	40.4	3.4	30.4	0.1	25.1	0.3	0.4	1938	59.3
40～49歳	51.6	4.1	24.6	0.5	18.2	0.4	0.7	1333	47.7
50～59歳	55.4	2.4	28.1	0.8	13.1	...	0.3	789	44.4
職種別									
技能・生産関連	67.9	2.0	14.9	0.6	13.8	0.1	0.6	1406	31.4
事務	34.9	4.3	37.3	0.5	22.3	...	0.8	654	64.4
営業	35.5	7.1	28.2	0.4	28.2	0.1	0.4	747	64.1
技術	36.8	3.0	35.3	0.5	23.9	0.3	0.1	2006	63.1
女性計	30.9	2.0	42.8	1.2	21.9	0.7	0.5	1270	68.6
年齢別									
29歳以下	22.0	1.9	39.6	2.2	33.7	0.3	0.3	323	77.7
30～39歳	22.2	3.2	48.4	1.6	23.1	0.6	0.9	316	76.9
40～49歳	39.1	1.6	40.4	0.5	16.7	1.6	0.3	384	60.7
50～59歳	42.5	1.7	42.9	0.4	12.0	...	0.4	233	57.1
職種別									
技能・生産関連	59.6	...	23.4	0.5	13.8	1.1	1.6	188	38.8
事務	27.3	2.4	47.3	1.0	20.9	0.9	0.2	583	72.6
営業	22.0	4.3	40.9	1.2	29.9	0.6	1.2	164	76.8
技術	22.4	1.4	49.3	2.1	24.5	0.3	...	290	77.6

※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す
 ※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す
 ※濃い網かけ数字は「総計」より15ポイント以上多いことを示す

アフターコロナについて年齢別でみると、ウィズコロナ同様、30代以下で＜会社以外＞が多い。いずれの層でも＜会社以外＞の割合はウィズコロナをやや下回るが、女性の30代以下では＜会社以外＞が7割強に及んでおり、29歳以下では「場所を限定せずに働きたい」が46.7%と5割近くを占める（第4-8表）。

職種別にみると、技能・生産関連で「会社」が6～7割と際立って多く、その他の職種では、＜会社以外＞が男性で6割前後、女性については7割前後を占める。女性の事務、営業、技術については「場所を限定せずに働きたい」が4割前後を占め、ウィズコロナの同比率を上回る。

第4-8表 今後の働き方として、主に働きたい場所 アフターコロナ

	会社	サテライト オフィス	自宅	実家	働きたい 場所を 限定せず に	その他	無回答	件数	会社 以外 計	
総計	46.3	3.8	19.0	0.6	29.4	0.4	0.5	6393	53.2	
男性計	48.9	3.9	17.9	0.6	27.9	0.3	0.5	5026	50.6	
年齢別	29歳以下	<u>40.8</u>	3.7	22.1	1.0	31.9	0.3	0.2	931	59.0
	30～39歳	44.2	4.0	18.9	0.4	31.8	0.2	0.4	1938	55.4
	40～49歳	55.4	4.1	<u>13.9</u>	0.5	24.8	0.5	0.8	1333	<u>43.8</u>
	50～59歳	59.6	3.2	17.5	0.4	<u>19.0</u>	...	0.4	789	<u>40.1</u>
職種別	技能・生産関連	68.4	2.5	<u>9.9</u>	0.6	<u>17.9</u>	0.1	0.6	1406	<u>31.0</u>
	事務	<u>39.1</u>	4.7	24.3	0.5	30.6	...	0.8	654	60.1
	営業	<u>40.7</u>	7.4	16.7	0.4	33.9	0.3	0.7	747	58.6
	技術	42.0	3.5	22.0	0.7	31.3	0.3	0.2	2006	57.8
女性計	<u>36.5</u>	3.1	22.8	0.9	35.4	0.8	0.7	1270	62.8	
年齢別	29歳以下	<u>25.7</u>	4.6	20.4	1.2	46.7	0.3	0.9	323	73.4
	30～39歳	<u>26.3</u>	3.2	30.7	1.3	37.0	0.6	0.9	316	72.8
	40～49歳	45.8	2.3	19.0	0.5	29.9	1.8	0.5	384	53.6
	50～59歳	50.2	2.1	20.2	0.4	26.6	...	0.4	233	49.4
職種別	技能・生産関連	62.2	2.1	<u>12.2</u>	0.5	<u>20.2</u>	1.1	1.6	188	<u>36.2</u>
	事務	<u>34.1</u>	2.7	25.0	0.7	36.2	1.0	0.2	583	65.7
	営業	<u>26.2</u>	6.1	22.0	0.6	42.7	0.6	1.8	164	72.0
	技術	<u>28.6</u>	2.8	26.6	1.7	39.3	0.3	0.7	290	70.7

※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す
 ※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す
 ※濃い網かけ数字は「総計」より15ポイント以上多いことを示す

第4-9表は、在宅勤務日数別にウィズコロナ、アフターコロナそれぞれについて主に働きたい場所をみたものである。

ウィズコロナについては、男女で共通した結果となっており、在宅勤務を行っていない層では、「会社」が6～7割と多数を占める。一方で、「自宅」は在宅勤務日数が多くなるほど比率が高くなり、週3日在宅勤務をしている層では5割弱、週4日以上になると6～8割と多数に及ぶ。また、週2日または週3日在宅勤務をしている層では、3割強が「場所を限定せずに働きたい」と回答している。

アフターコロナについてみると、在宅勤務を行っていない層では、ほぼ7割が「会社」と回答している。「自宅」の割合は、ウィズコロナ同様、在宅勤務日数が多いほど多くなるが、同割合はウィズコロナよりも少なく、週5日在宅勤務をしている層でも5割程度である。その分、「場所を限定せずに働きたい」が多くなり、男性では週3日および4日、女性では週2日以上在宅勤務をしている層で「場所を限定せずに働きたい」が4～5割を占める。

第4-9表 今後の働き方として、主に働きたい場所

	ウィズコロナ							アフターコロナ							件数
	会社	スサ なテ ラ イ ト オ フ イ	自 宅	実 家	働 場 所 を 限 定 せ ず に	そ の 他	無 回 答	会社	スサ なテ ラ イ ト オ フ イ	自 宅	実 家	働 場 所 を 限 定 せ ず に	そ の 他	無 回 答	
総計	42.2	3.3	31.3	0.6	21.8	0.3	0.4	46.3	3.8	19.0	0.6	29.4	0.4	0.5	6393
男性計	45.3	3.4	28.4	0.5	21.7	0.2	0.4	48.9	3.9	17.9	0.6	27.9	0.3	0.5	5026
在宅勤務日数別															
在宅勤務は行っていない	67.6	3.1	<u>12.7</u>	0.3	<u>15.3</u>	0.3	0.6	68.4	3.2	<u>8.8</u>	0.4	<u>18.2</u>	0.3	0.7	2022
週1日	52.4	3.2	<u>19.4</u>	0.1	24.6	0.2	0.1	56.4	3.4	<u>10.8</u>	0.4	28.9	0.1	0.1	1077
週2日	<u>32.5</u>	5.0	30.4	0.9	30.9	0.2	0.2	42.7	5.3	15.4	0.9	35.0	0.2	0.5	585
週3日	<u>12.7</u>	4.8	48.1	0.4	32.7	0.2	0.9	<u>19.1</u>	5.3	30.3	0.7	43.7	0.2	0.7	455
週4日	<u>7.4</u>	3.0	60.2	1.4	27.5	0.3	0.3	<u>12.8</u>	4.1	39.8	0.8	41.7	0.5	0.3	367
週5日	<u>5.2</u>	2.6	73.7	0.9	17.7	<u>9.1</u>	5.2	49.5	1.1	35.0	0.2	...	463
女性計	<u>30.9</u>	2.0	42.8	1.2	21.9	0.7	0.5	<u>36.5</u>	3.1	22.8	0.9	35.4	0.8	0.7	1270
在宅勤務日数別															
在宅勤務は行っていない	64.9	2.2	<u>18.5</u>	0.3	<u>12.6</u>	0.6	0.9	69.8	2.2	<u>9.5</u>	0.3	<u>16.6</u>	0.6	0.9	325
週1日	40.3	1.7	32.5	0.9	24.2	0.4	...	48.1	3.0	<u>11.3</u>	0.4	36.4	0.4	0.4	231
週2日	<u>23.1</u>	3.0	40.2	1.0	30.2	1.5	1.0	<u>28.1</u>	5.0	18.1	1.0	45.2	1.5	1.0	199
週3日	<u>11.4</u>	2.4	48.5	2.4	34.7	0.6	...	<u>21.0</u>	5.4	21.0	1.2	50.3	1.2	...	167
週4日	<u>6.0</u>	...	70.9	0.7	21.2	1.3	...	<u>10.6</u>	1.3	44.4	0.7	41.1	1.3	0.7	151
週5日	<u>1.7</u>	2.2	76.5	2.8	<u>16.8</u>	<u>5.0</u>	1.7	50.3	2.2	40.2	...	0.6	179

※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す
 ※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す
 ※濃い網かけ数字は「総計」より15ポイント以上多いことを示す

第5章 在宅勤務

1. 在宅勤務の経験

－2019年以前に「あった」は17.7%－

2021年4～9月に在宅勤務を「週1日」以上した方について、2019年以前（新型コロナウイルス感染症流行前）の在宅勤務の経験をたずねたところ、「なかった」が81.8%と8割強を占め、「あった」（17.7%）は2割近くである（第5－1表）。

性別で見ると、「あった」は女性（21.5%）が男性（16.5%）を5ポイント上回る。

職種別に「あった」比率をみると、男性の場合、技能・生産関連では1割にとどまるが、その他の職種では2割前後を占め、なかでも事務で21.9%と最も多い。女性についても技能・生産関連で他の職種に比べて少ないが、同割合は16.1%と男性を6ポイント上回る。女性の事務、営業、技術では「あった」は2割強を占める。

第5－1表 2019年以前（新型コロナウイルス感染症流行前）の在宅勤務の経験
（2021年4～9月に在宅勤務をした方）

		あ っ た	な か っ た	無 回 答	件 数
総計		17.7	81.8	0.5	3934
男性計		16.5	83.1	0.4	2947
職 種 別	技能・生産関連	9.9	90.1	...	343
	事務	21.9	77.7	0.4	498
	営業	16.7	82.4	0.9	534
	技術	16.4	83.2	0.4	1464
女性計		21.5	78.0	0.5	927
職 種 別	技能・生産関連	16.1	83.9	...	56
	事務	21.8	77.8	0.4	459
	営業	22.9	77.1	...	144
	技術	20.6	78.3	1.2	253

※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す

※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す

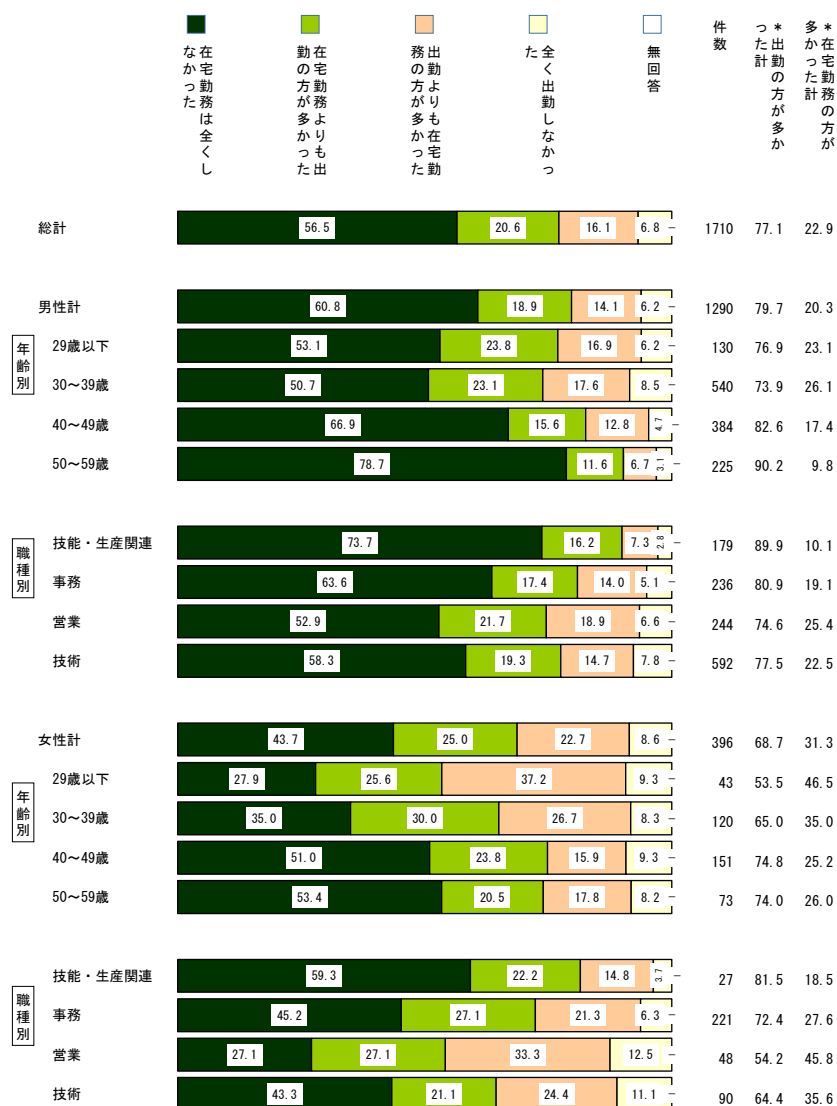
（中略）

3. 配偶者の在宅勤務

— <在宅勤務の方が多かった>は男性 20.3%、女性 31.3%—

2021年4～9月に在宅勤務をした、かつ、配偶者が働いている方を対象に、調査回答までの1カ月の配偶者の在宅勤務の状況をたずねた結果をみると、「在宅勤務は全くしなかった」が56.5%と6割近くを占め、4割強が配偶者も在宅勤務をしていることが明らかとなった。「在宅勤務はしなかった」に「在宅勤務よりも出勤の方が多かった」をあわせて「出勤の方が多かった」が77.1%、<在宅勤務の方が多かった>（「出勤よりも在宅勤務の方が多かった」と「全く出勤しなかった」の合計）は22.9%である。性別で見ると、<在宅勤務の方が多かった>は男性（20.3%）に比べて、女性（31.3%）が多い。年齢別では、男女ともに若い層ほど<在宅勤務の方が多かった>が多いが、いずれの年齢層も男性に比べて女性が多い。職種別でも、すべての職種で男性に比べて女性で<在宅勤務の方が多かった>が多いが、営業で最も多く、技能・生産関連で少ない点は男女で共通している（第5-2図）。

第5-2図 配偶者の在宅勤務状況（この1カ月）
（2021年4～9月に在宅勤務をした、配偶者が働いている方）

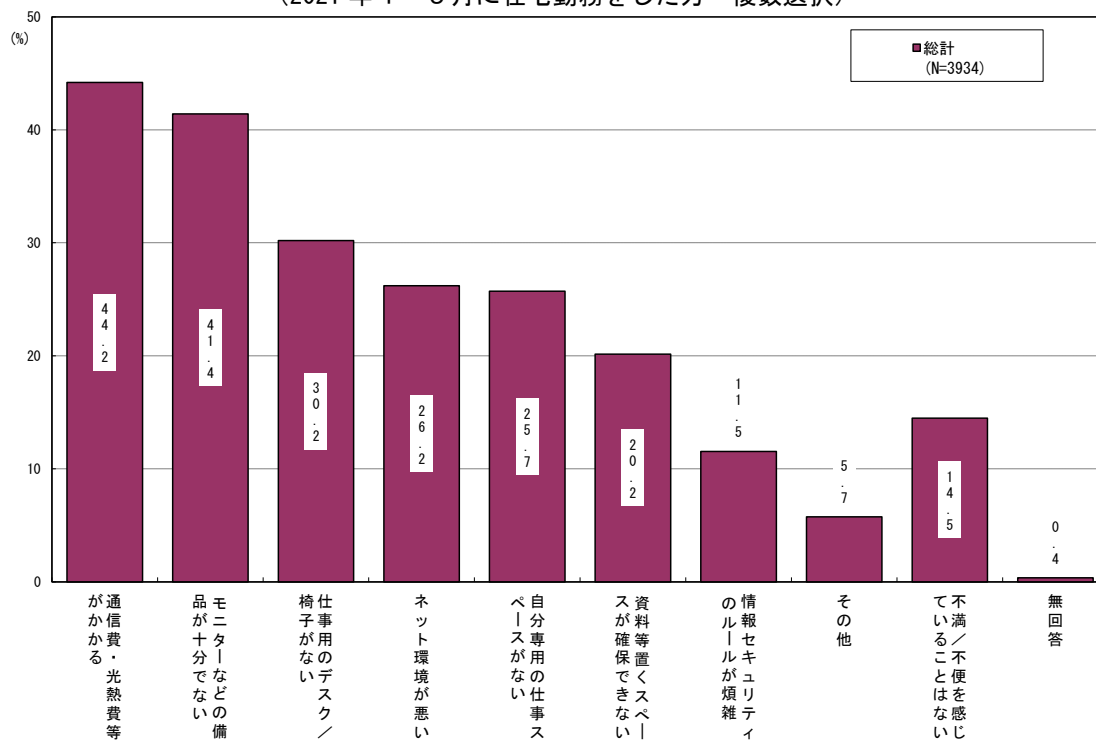


4. 在宅勤務をするうえで不満／不便に感じていること

－上位は「通信費・光熱費等がかかる」と「モニターなどの備品が十分でない」－

2021年4～9月に在宅勤務をした方を対象に、在宅勤務で不満／不便に感じていることを複数選択でたずねたところ、「不満／不便を感じていることはない」は14.5%と1割強にとどまり、在宅勤務を行っている組合員の多くが不満や不便を感じていることが確認できる。不満や不便の中身をみると、「通信費、光熱費等がかかる」(44.2%)と「モニターやプリンターなどの備品が十分でない」(41.4%)がともに4割強を占め、上位にあげられている。以下、「仕事用のデスク／椅子がない」(30.2%)が3割、「ネット環境が悪い」(26.2%)、「自分専用の仕事スペースがない」(25.7%)、「仕事に必要な資料やパソコンなどを置くスペースが確保できない」(20.2%)が2割台、「情報セキュリティに関するルールが煩雑である(ルールが厳しくなり作業上の手間が増えた)」(11.5%)が1割強で続いている(第5-3図)。

第5-3図 在宅勤務をするうえで、不満／不便に感じていること
(2021年4～9月に在宅勤務をした方・複数選択)



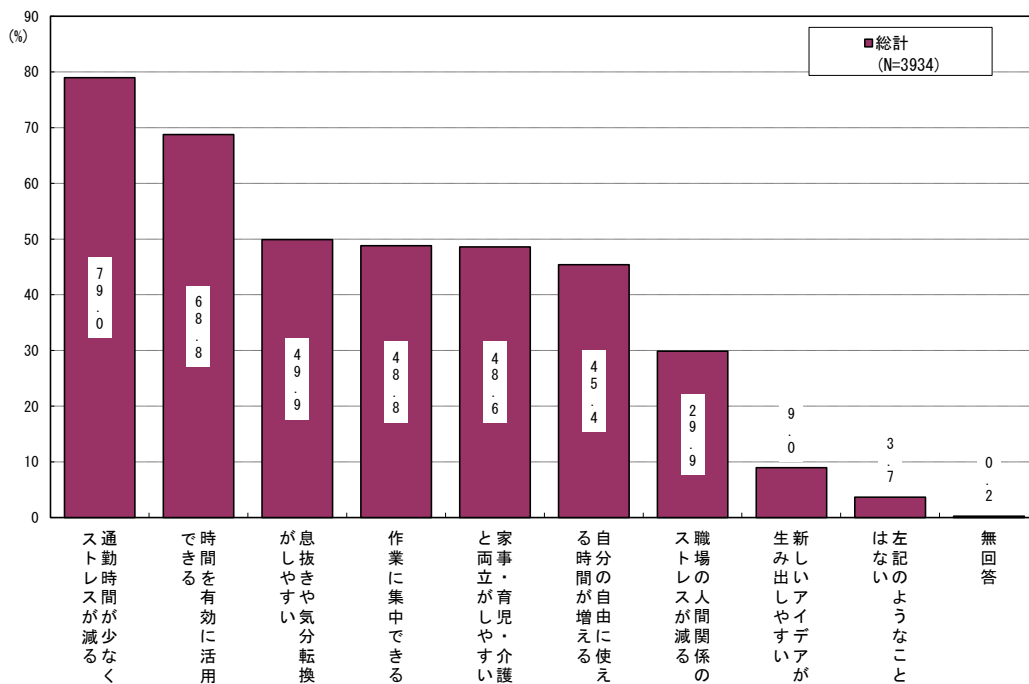
(中略)

5. 在宅勤務のメリット

－ 8割近くが「通勤時間が少なくストレスが減る」－

2021年4～9月に在宅勤務をした方を対象に、在宅勤務で感じていること（複数選択）についてみると、「通勤時間が少なくなりストレスが減る」（79.0%）が8割近くと最も多く、これに「時間を有効に活用できる」（68.8%）が7割弱で続いている。以下、「息抜きや気分転換がしやすい」（49.9%）、「作業に集中できる」（48.8%）、「家事・育児・介護との両立しやすい」（48.6%）、「自分の自由に使える時間が増える」（45.4%）が5割弱、「職場の人間関係のストレスが軽減される」（29.9%）が3割を占める。「新しいアイデアが生み出しやすい」（9.0%）については1割弱にとどまった。なお、「左記のようなことはない」は3.7%とわずかであり、在宅勤務によるメリットを感じている組合員が大多数を占めていることがわかる（第5－4図）。

第5－4図 在宅勤務であなたが感じていること（2021年4～9月に在宅勤務をした方・複数選択）



性別では、上位にあげられている項目は概ね共通しているが、女性は「時間を有効に活用できる」「家事・育児・介護と両立しやすい」「自分の自由に使える時間が増える」「職場の人間関係のストレスが減る」で男性を上回る（第5－4表）。

年齢別にみると、男性の場合、上位項目は共通しているものの、若い層ほど比率が高くなる項目が多く、29歳以下では「息抜きや気分転換がしやすい」が6割、「自分の自由に使える時間が増える」が5割を占め、30代以上の層を上回っている。女性については、30代以下の層で、「通勤時間が少なくストレスが減る」「自分の自由に使える時間が増える」「職場の人間関係のストレスが減る」で40代以上を上回るのに対し、30代以上では「家事・育児・介護等と両立しやすい」、40代以上では「作業に集中できる」が多くなっている。

職種別にみると、男性では技能・生産関連で「作業に集中できる」が5割台半ばと他の職種を上回る。女性については、事務と技術で「家事・育児・介護と両立がしやすい」が6割前後と多いほか、技能・生産関連と事務では「時間を有効に活用できる」や「作業に集中できる」、営業と技術は「自分の自由に使える時間が増える」、事務と営業では「職場の人間関係のストレスが減る」がそれぞれ多い。

第5-4表 在宅勤務であなたが感じていること（2021年4～9月に在宅勤務をした方・複数選択）

	ス ト ス 間 が 減 少 な く	通 勤 時 間 が 有 効 に 活 用 可 い	時 間 を 有 効 に 活 用 可 い	が し や す い に 活 用 可 い	息 抜 き が 分 か る	職 場 の 人 間 関 係 が よ い	作 業 に 集 中 で き る	生 産 に 出 し や す い	新 し い ア プ リ ケ ー シ ョ ン	と 家 事 ・ 育 児 ・ 介 護 が 両 立 し や す い	自 分 の 時 間 を 自 由 に 使 え る	は な い よ う な こ と	左 の よ う な こ と	無 回 答	件 数
総計	79.0 ①	68.8 ②	49.9 ③	29.9	48.8 ④	9.0	48.6	45.4	3.7	0.2	3934				
男性計	77.5 ①	66.6 ②	50.6 ③	27.8	47.3 ④	9.6	45.3	43.5	4.1	0.2	2947				
年齢別	29歳以下	80.4 ①	67.6 ②	60.3 ③	31.5	43.9 ④	9.3	35.8	50.8 ④	3.0	0.4	537			
	30～39歳	80.2 ①	68.3 ②	53.2 ③	28.5	47.5 ④	10.5	53.1 ④	44.2	3.4	0.2	1235			
	40～49歳	74.9 ①	67.2 ②	44.5 ③	24.5	48.0 ③	7.6	45.7 ④	39.8	3.5	...	713			
	50～59歳	70.1 ①	59.4 ②	42.2 ④	27.7	50.3 ③	11.1	34.0	39.5	8.8	...	441			
職種別	技能・生産関連	73.5 ①	63.3 ②	49.9 ④	29.7	55.1 ③	7.9	40.8	42.0	5.2	0.3	343			
	事務	78.5 ①	69.7 ②	52.2 ③	30.9	50.2 ④	10.6	43.0	45.0	4.0	0.6	498			
	営業	74.5 ①	68.4 ②	48.7 ③	29.2	44.0 ④	10.7	45.3 ④	42.7	5.4	...	534			
	技術	79.0 ①	65.1 ②	50.5 ③	25.4	45.9 ④	8.9	47.0 ④	43.0	3.6	0.1	1464			
女性計	83.8 ①	75.4 ②	47.4	35.7 ④	53.1 ④	6.4	58.6 ③	51.1	2.2	0.4	927				
年齢別	29歳以下	87.3 ①	72.9 ②	59.4 ④	39.8	50.2 ④	6.4	49.8	62.9 ③	0.8	...	251			
	30～39歳	86.7 ①	80.2 ②	50.6	41.8	51.7	7.2	60.8 ③	59.7 ④	1.5	0.4	263			
	40～49歳	81.6 ①	76.6 ②	40.6 ③	31.6	57.0 ④	7.0	64.1 ③	41.4	1.6	0.4	256			
	50～59歳	77.2 ①	69.7 ②	34.5 ④	26.2	55.9 ④	4.1	62.1 ③	35.2	6.2	0.7	145			
職種別	技能・生産関連	67.9 ②	76.8 ①	41.1	33.9	57.1 ③	3.6	51.8 ④	42.9	5.4	1.8	56			
	事務	85.8 ①	77.6 ②	45.5	36.2	56.9 ④	6.3	62.1 ③	49.5	1.5	0.2	459			
	営業	84.0 ①	70.8 ②	52.8	43.8	54.2 ④	9.0	52.1	55.6 ③	144			
	技術	83.0 ①	72.3 ②	49.4	30.8	43.9	4.7	55.7 ③	53.4 ④	4.0	0.8	253			

※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す
 ※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す
 ※濃い網かけ数字は「総計」より15ポイント以上多いことを示す
 ※丸数字は比率の順位(第4位まで表示)

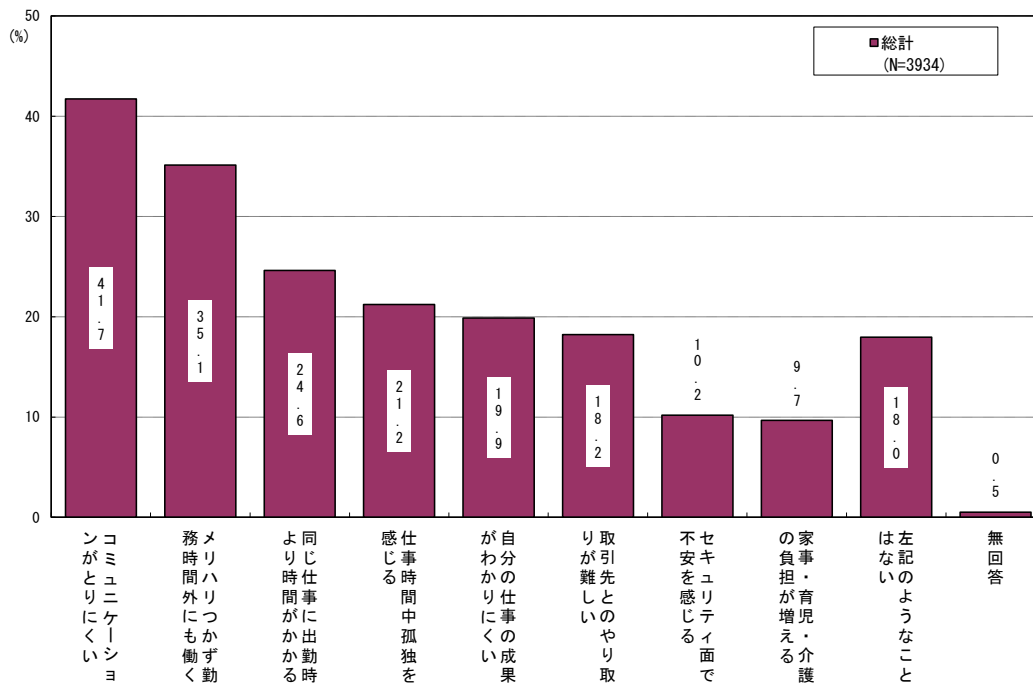
(中略)

6. 在宅勤務の課題

－「コミュニケーションが取りにくい」、「メリハリつかず勤務時間外にも働く」が上位、女性、男性 50 代の 3 割近くが「仕事時間中に孤独を感じる」－

第 5－5 図は在宅勤務で経験したこと（2021 年 4～9 月に在宅勤務をした人が対象、複数選択）として、在宅勤務の課題をたずねた結果である。これをみると、「左記のようなことはない」は 18.0%にとどまり、8 割強の組合員が在宅勤務による何らかの課題を感じていることがわかる。課題の中身をみると、「画面を通じたやりとりによりコミュニケーションがうまくとれない」（41.7%）が 4 割強、「時間のメリハリがつかず、勤務時間外にも働いてしまう」（35.1%）が 3 割台半ばを占め、上位にあげられている。以下、「同じ仕事をしているのに出勤時よりも時間がかかる」（24.6%）、「仕事時間中孤独を感じる」（21.2%）、「自分の仕事の成果がわかりにくい」（19.9%）、「取引先とのやり取りが難しい」（18.2%）が 2 割前後、「機密情報の取り扱いなどセキュリティ面で不安を感じる」（10.2%）、「家事・育児・介護の負担が増える」（9.7%）が 1 割で続いている。

第 5－5 図 在宅勤務で経験したこと（2021 年 4～9 月に在宅勤務をした方・複数選択）



性別で見ると、上位にあげられている項目は共通しているが、「仕事時間中孤独を感じる」は女性で26.5%を占め、男性（19.7%）を7ポイント上回っている（第5－6表）。

年齢別にみると、男性では50代で「仕事時間中孤独を感じる」が3割弱と40代以下に比べて多い。女性は、30代以下の層で、「コミュニケーションがとりにくい」が5割近くを占め、40代以上を上回る。また、「メリハリつかず勤務時間外にも働く」でも30代以下でやや比率が高くなっている。

職種別では、男女ともに営業で「メリハリつかず勤務時間外にも働く」と「取引先とのやり取りが難しい」が多い。

第5－6表 在宅勤務で経験したこと（2021年4～9月に在宅勤務をした方・複数選択）

	務メリハリつかず勤務時間外にも働く	コミュニケーションがとりにくい	仕事時間中孤独を感じる	取引先とのやり取りが難しい	不安を感じる	家の負担が増える	仕事時間中孤独を感じる	左記のようないふ	無回答	件数	
総計	35.1 ②	24.6 ③	19.9	41.7 ①	18.2	10.2	9.7	21.2 ④	18.0	0.5	3934
男性計	34.7 ②	25.0 ③	19.2	41.6 ①	19.5	10.2	10.1	19.7 ④	17.6	0.5	2947
年齢別											
29歳以下	34.5 ②	27.7 ③	16.0	41.0 ①	17.5	10.6	3.0	19.4 ④	17.9	0.7	537
30～39歳	36.9 ②	27.0 ③	19.5	42.9 ①	21.2 ④	10.3	12.3	18.3	15.6	0.3	1235
40～49歳	34.2 ②	22.9 ③	20.9	39.8 ①	17.8	9.7	13.7	17.8	19.1	0.6	713
50～59歳	29.9 ②	19.5 ③	19.5	41.7 ①	19.0	10.4	6.8	26.8 ③	20.6 ④	0.5	441
職種別											
技能・生産関連	34.1 ②	20.4 ④	21.9 ③	37.0 ①	19.0	13.1	6.7	15.7 ③	20.1	...	343
事務	33.1 ②	27.1 ③	21.1 ④	42.6 ①	15.3	9.0	9.0	20.9	17.5	1.0	498
営業	41.2 ②	26.2 ④	23.0	43.8 ①	34.1 ③	9.7	9.7	20.4	14.0	0.7	534
技術	33.0 ②	24.6 ④	16.5	41.7 ①	16.0	10.2	11.4	19.9 ④	18.2	0.4	1464
女性計	37.3 ②	23.6 ④	22.0	42.6 ①	14.2	10.1	7.8	26.5 ③	18.4	0.5	927
年齢別											
29歳以下	38.6 ②	27.9 ③	21.9	47.4 ①	20.7	10.4	3.6	25.1 ④	15.1	0.8	251
30～39歳	41.4 ②	24.7 ④	24.3	47.9 ①	13.3	10.6	6.8	27.8 ③	18.6	0.4	263
40～49歳	34.0 ②	17.2 ④	20.7	36.7 ①	9.8	8.2	10.5	23.4 ③	22.3 ④	...	256
50～59歳	35.2 ②	25.5 ④	20.0	36.6 ①	13.1	13.1	11.0	33.1 ③	15.2	1.4	145
職種別											
技能・生産関連	19.6 ②	19.6	25.0 ②	50.0 ①	14.3	10.7	...	21.4 ④	23.2 ③	...	56
事務	32.5 ②	21.6 ④	21.1	38.8 ①	10.9	10.2	9.8	27.0 ③	19.6	0.7	459
営業	52.1 ①	29.9 ④	26.4	48.6 ②	34.0 ③	10.4	5.6	25.0	13.2	...	144
技術	41.5 ②	25.7 ④	20.9	44.7 ①	9.5	9.1	7.5	28.1 ③	17.8	0.8	253

※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す
 ※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す
 ※濃い網かけ数字は「総計」より15ポイント以上多いことを示す
 ※丸数字は比率の順位（第4位まで表示）

（中略）

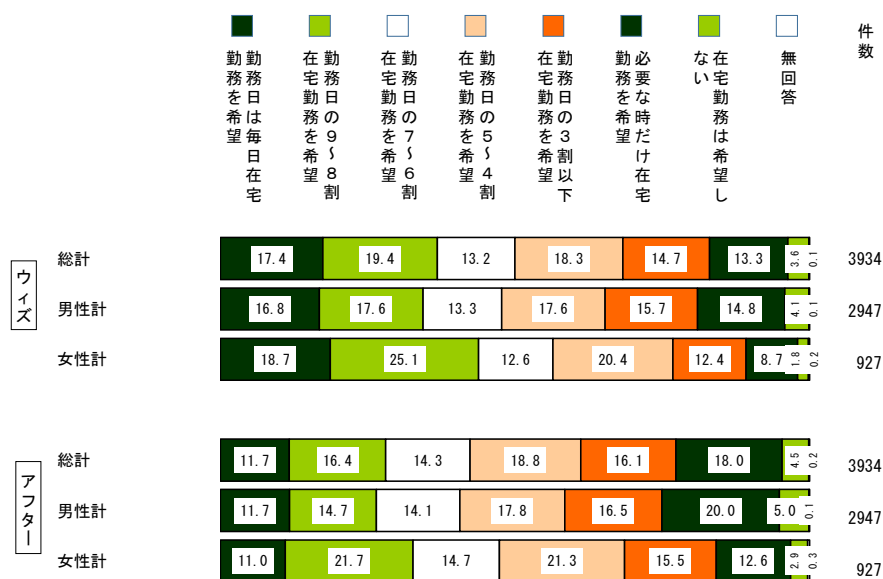
7. 今後の在宅勤務の希望

— 大多数が在宅勤務を希望するものの、希望する割合はさまざま —

2021年4～9月に在宅勤務をした方を対象に、ウィズコロナ、アフターコロナそれぞれについて、今後の働き方としての在宅勤務の希望をみると、「在宅勤務は希望しない」はウィズコロナが3.6%、アフターコロナが4.5%とともにごくわずかにとどまる。希望する在宅勤務の割合をみると、「勤務日は毎日在宅勤務を希望する」はウィズコロナ17.4%、アフターコロナ11.7%と、ウィズコロナの方がやや多いが、希望する割合は回答が分かれている（第5－6図）。

性別にみると、ウィズコロナ、アフターコロナともに「在宅勤務は希望しない」、「勤務日は毎日在宅勤務を希望する」は、男女でほとんど差はないが、女性は「勤務日の9～8割程度在宅勤務を希望する」が男性に比べて多い。男性については、「家庭の都合など必要な時だけなら在宅勤務を希望する」で女性を上回っている。

第5－6図 今後の働き方としての在宅勤務希望（2021年4～9月に在宅勤務をした方）



第5-8表は、ウィズコロナ、アフターコロナそれぞれについて、今後の働き方の希望を年齢別、職種別にみたものである。

まず、ウィズコロナについてみると、男性年齢別では目立った違いはない。女性年齢別では、30代で「勤務日は毎日」「勤務日の9～8割」の割合が多く、5割強が<勤務日の8割以上>の在宅勤務を希望している。職種別では、男女ともに技能・生産関連で「勤務日の3割以下」と「必要な時だけ」が多く、他の職種に比べて在宅勤務を希望する割合は少ない。一方、女性の技術では「勤務日は毎日」が25.3%とやや多く、<勤務日の8割以上>在宅勤務を希望する割合が5割近くを占める。

アフターコロナについてみると、年齢別では、ウィズコロナ同様、女性の30代で<勤務日の8割以上>在宅勤務を希望する割合が4割と他の層を上回る。職種別では、男性技能・生産関連で「必要な時だけ」が3割強、「在宅勤務は希望しない」が1割と他の職種に比べてやや多い。女性技能・生産関連については、「勤務日の3割以下」と「必要な時だけ」をあわせて5割近くを占め、他の女性を上回る。ウィズコロナで4人に1人が「勤務日は毎日」を希望していた女性技術職では、「勤務日は毎日」は15.0%とウィズコロナを10ポイント下回るが、<勤務日の8割以上>在宅勤務を希望する割合は4割近くを占め、他の女性や男性技術職に比べて多い。

第5-8表 今後の働き方としての在宅勤務希望（2021年4～9月に在宅勤務をした方）

	ウィズコロナ								アフターコロナ								件数
	勤務日を希望は毎日在宅	在宅勤務の9割以上を希望	在宅勤務の7割以上を希望	在宅勤務の5割以上を希望	在宅勤務の3割以上を希望	必要な時だけ在宅勤務を希望	在宅勤務は希望しない	無回答	勤務日を希望は毎日在宅	在宅勤務の9割以上を希望	在宅勤務の7割以上を希望	在宅勤務の5割以上を希望	在宅勤務の3割以上を希望	必要な時だけ在宅勤務を希望	在宅勤務は希望しない	無回答	
総計	17.4	19.4	13.2	18.3	14.7	13.3	3.6	0.1	11.7	16.4	14.3	18.8	16.1	18.0	4.5	0.2	3934
男性計	16.8	17.6	13.3	17.6	15.7	14.8	4.1	0.1	11.7	14.7	14.1	17.8	16.5	20.0	5.0	0.1	2947
年齢別																	
29歳以下	16.4	19.4	13.8	17.7	15.3	14.0	3.5	...	14.2	16.0	14.7	17.3	15.5	18.2	4.1	...	537
30～39歳	15.7	18.5	13.4	17.9	16.2	14.9	3.3	0.1	11.4	14.3	15.1	18.5	17.2	19.4	3.9	0.2	1235
40～49歳	16.4	16.8	14.0	17.1	15.0	17.1	3.5	...	9.0	15.3	14.0	18.4	15.7	22.6	4.9	0.1	713
50～59歳	20.4	14.5	10.9	17.2	16.6	12.0	8.2	0.2	14.3	13.2	10.7	15.4	17.9	19.3	9.3	...	441
職種別																	
技能・生産関連	9.0	10.5	11.7	16.6	22.2	21.3	8.7	...	6.7	8.2	9.6	14.9	19.5	31.2	9.9	...	343
事務	16.9	21.9	14.9	18.1	13.7	11.4	3.0	0.2	10.8	19.9	16.3	18.5	15.3	14.7	4.4	0.2	498
営業	12.9	14.2	19.3	20.2	16.5	12.4	4.3	0.2	8.1	10.1	19.1	22.5	17.4	18.0	4.3	0.6	534
技術	19.9	18.8	11.3	16.7	14.3	15.5	3.3	0.1	14.5	16.1	12.6	16.9	15.8	19.9	4.2	...	1464
女性計	18.7	25.1	12.6	20.4	12.4	8.7	1.8	0.2	11.0	21.7	14.7	21.3	15.5	12.6	2.9	0.3	927
年齢別																	
29歳以下	17.5	23.1	17.1	21.9	12.4	6.8	1.2	...	9.6	21.1	16.7	20.7	17.5	11.2	2.4	0.8	251
30～39歳	22.8	28.1	9.1	20.5	8.4	8.4	2.3	0.4	14.4	25.9	12.9	20.2	11.8	11.0	3.4	0.4	263
40～49歳	13.7	23.4	12.5	21.5	16.0	10.9	1.6	0.4	9.4	16.4	13.3	23.8	18.8	15.2	3.1	...	256
50～59歳	20.0	26.2	11.0	16.6	13.8	9.7	2.8	...	9.0	23.4	16.6	20.0	13.8	14.5	2.8	...	145
職種別																	
技能・生産関連	14.3	17.9	5.4	16.1	21.4	19.6	5.4	...	7.1	16.1	8.9	12.5	23.2	23.2	8.9	...	56
事務	15.3	27.5	11.8	20.9	13.1	8.9	2.2	0.4	8.7	21.6	17.6	20.3	15.5	12.9	3.1	0.4	459
営業	17.4	22.9	15.3	27.8	9.0	6.9	0.7	...	11.8	18.8	11.8	28.5	16.7	10.4	2.1	...	144
技術	25.3	23.7	14.6	16.6	11.5	7.1	1.2	...	15.0	23.7	12.6	20.9	13.8	11.5	2.0	0.4	253

※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す
 ※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す

第5-9表から、在宅勤務日数別にみると、ウィズコロナ、アフターコロナともに在宅勤務日数が多いほど、希望する在宅勤務の日数が増える傾向にある。

ウィズコロナについてみると、男女ともに週5日在宅勤務をしている層では「勤務日は毎日」が6割前後を占め、「勤務日の9～8割」をあわせると9割程度に上る。一方で、週1日在宅勤務をしている層では、男性の場合、「在宅勤務は希望しない」が1割弱を占め、「必要な時だけ」が3割強と多い。女性の週1日在宅勤務の層でも、男性に比べて比率は低いですが、同様の傾向がみられる。

アフターコロナについては、週5日在宅勤務の層でも「勤務日は毎日」が男性4割強、女性3割強とウィズコロナよりも少ないが、「勤務日は毎日」または「勤務日の9～8割」が中心である。一方、週1日在宅勤務の層では、「必要な時だけ」が男性4割弱、女性3割弱とウィズコロナよりもやや多いが、「在宅勤務は希望しない」は男女ともに1割を下回っている。

第5-9表 今後の働き方としての在宅勤務希望（2021年4～9月に在宅勤務をした方）

	ウィズコロナ								アフターコロナ								件数	
	勤務日を希望毎日在宅	在宅勤務の9割	在宅勤務の7割	在宅勤務の5割	在宅勤務の3割以下	勤務を希望しない在宅勤務は希望し	必要な時だけ在宅	無回答	勤務日を希望毎日在宅	在宅勤務の9割	在宅勤務の7割	在宅勤務の5割	在宅勤務の3割以下	勤務を希望しない在宅勤務は希望し	必要な時だけ在宅	無回答		
総計	17.4	19.4	13.2	18.3	14.7	13.3	3.6	0.1	11.7	16.4	14.3	18.8	16.1	18.0	4.5	0.2	3934	
男性計	16.8	17.6	13.3	17.6	15.7	14.8	4.1	0.1	11.7	14.7	14.1	17.8	16.5	20.0	5.0	0.1	2947	
在宅勤務日数別	週1日	4.9	5.0	6.0	17.6	26.6	31.1	8.5	0.1	4.0	3.5	4.7	14.0	26.3	37.5	9.8	0.1	1077
	週2日	6.3	7.5	17.6	30.6	23.2	11.5	3.2	...	4.8	4.8	14.4	28.2	23.9	19.7	4.1	0.2	585
	週3日	11.2	24.8	30.8	23.1	5.3	3.3	1.3	0.2	7.0	18.5	29.2	27.5	7.9	7.7	2.0	0.2	455
	週4日	22.3	48.2	16.3	7.9	2.2	2.5	0.5	...	14.4	37.1	25.9	13.1	4.4	4.4	0.8	...	367
	週5日	58.5	28.3	5.4	3.2	1.5	2.4	0.4	0.2	41.0	32.0	11.7	7.8	2.4	3.9	1.1	0.2	463
女性計	18.7	25.1	12.6	20.4	12.4	8.7	1.8	0.2	11.0	21.7	14.7	21.3	15.5	12.6	2.9	0.3	927	
在宅勤務日数別	週1日	3.9	8.2	7.8	22.5	29.0	23.4	4.8	0.4	2.6	7.4	4.8	16.5	32.9	28.1	7.8	...	231
	週2日	4.5	14.6	12.6	41.2	18.1	7.0	2.0	...	3.5	9.0	9.0	38.2	21.1	16.6	2.0	0.5	199
	週3日	10.2	24.0	29.9	26.3	6.0	3.0	0.6	...	7.8	14.4	24.6	35.9	11.4	3.6	1.8	0.6	167
	週4日	18.5	59.6	12.6	5.3	0.7	3.3	11.3	41.1	28.5	9.9	3.3	5.3	0.7	...	151
	週5日	61.5	30.7	2.8	1.7	0.6	1.7	0.6	0.6	33.0	44.7	12.8	4.5	1.1	2.8	0.6	0.6	179

※下線数字は「総計」より5ポイント以上少ないことを示す
 ※薄い網かけ数字は「総計」より5ポイント以上多いことを示す
 ※濃い網かけ数字は「総計」より15ポイント以上多いことを示す

電機連合「ウィズ・アフターコロナ社会のワークスタイルとキャリアに関する調査」を実施して

電機連合 中央執行委員 内田 文子

新型コロナウイルス感染症は、私たちの暮らしや働き方に大きな変化を生じさせました。電機連合では、これらの変化の実態と課題に着目するテーマとして「ウィズ・アフターコロナ社会のワークスタイルとキャリア」に関する意識について調査を行うこととしました。

本調査では、「仕事に関する意識」「労働時間の現状」「ウィズ・アフターコロナ社会の働き方」「労働組合の活動」についての項目に加え、在宅勤務の経験者に「在宅勤務の実施状況や在宅勤務に関する意識」などをたずねています。また調査設計にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大前の意識とも比較できるように、過去の調査項目と同じ設問項目を複数設定しました。

調査実施にあたっては、政策委員組合の組合員7,000名を対象に、在宅勤務実施者が増えていることを鑑み、調査票での調査に加え、WEBを使つての調査を行いました。回答率は91.3%と高く、調査票での回答が約4割、WEBでの回答が約6割となりました。また、ウィズ・アフターコロナ社会の働き方についての希望や課題を自由記入でたずねたところ、約1,600名から回答がありました。

調査結果について一部を紹介すると、テレワーク制度の導入状況は「制度がある」(84.0%)と「運用上認められている」(9.4%)をあわせると9割を超えていました。また、在宅勤務経験者(2021年4~9月に在宅勤務を「週1日」以上した方)の2019年以前(新型コロナウイルス感染症流行前)の在宅勤務経験は、「なかった」が8割強に及び、コロナ禍を契機に、在宅勤務制度の導入が進んだことが数値的にもうかがえます。

コロナ前後の仕事の進め方の変化をみると[就労する時間の長さ]は「変わらない」との回答が7割を占めていますが、打ち合わせの[時間]と[頻度]は5割程度が変化を実感しており、ともに「増えた」が「減った」を上回り、在宅勤務の導入などにより仕事の仕方にも変化がみられます。

日頃のコミュニケーション方法では、「直接会って話す」が6割強と最も多く、これに「ZoomなどWEB会議システムを通じて話をする」(4割)、「会社のチャットツールを通じてやりとりをする」(3割強)が続いていました。これを職種別にみると、技能・生産関連では男女ともに「直接会って話す」が9割近くと圧倒的に多い一方、事務職と技術職を中心に「WEB会議システム」や「会社のチャットツール」の比率が高くなっており、職種による違いがみられました。また、コロナ前後の職場の変化では、5割前後が「ちょっとした相談や雑談がしにくい」「職場の一体感が希薄だと感じる」と回答しています。これを在宅勤務日数別にみると、在宅勤務を週2日以上している層でその割合は高くなり、「ちょっとした相談や雑談がしにくい」、「職場の一体感が希薄だと感じる」に加え、「上司

から学ぶ機会が減った]が5割台を占めていました。

この調査では、今後働きたい場所について、ウィズコロナ、アフターコロナでそれぞれにたずねています。全体では、「自宅」や「場所を限定しない」などの<会社以外>はウィズコロナで57.3%、アフターコロナでも53.2%と半数以上を占めます。これを性別で比較すると、ウィズコロナ、アフターコロナともに、「会社」は男性が女性を、「自宅」は女性が男性を上回っていました。また年齢別で見るとウィズコロナ、アフターコロナともに30代以下で<会社以外>が多く、40代以上で「会社」が多くなっていました。つまり、それぞれの層によって、ニーズが異なることが確認できます。

在宅勤務の実施状況については、2021年4～9月に、<在宅勤務を行っている>割合は、男性（6割弱）に比べ、女性（7割強）が多く、なかでも、女性の技術職で4人に1人が「週5日」在宅勤務と回答しています。

さらに、在宅勤務をした方を対象に、在宅勤務のメリットについてたずねたところ、8割近くが「通勤時間が少なくなりストレスが減る」と回答しており、次いで「時間を有効に活用できる」（7割弱）と回答しています。なお、「記載のようなことはない」（メリットを感じていない）は3.7%とわずかであり、在宅勤務によるメリットを感じている組合員が大多数を占めていることがわかります。一方、在宅勤務の課題については、「画面を通じたやりとりによりコミュニケーションがうまくとれない」（4割強）、「時間のメリハリがつかず、勤務時間外に働いてしまう」（3割半ば）が上位にあげられていました。また、女性や男性の50代の3割近くが「仕事時間中孤独を感じる」と回答しており、自由記入でも「意思疎通の課題」や「健康面・メンタル面の課題」なども指摘されていました。

また、今後の在宅勤務の希望は、ウィズコロナ、アフターコロナともに「在宅勤務を希望しない」はごくわずかにとどまりますが、希望する割合は回答が分かれています。

このように、在宅勤務については、メリットが感じられている一方で、課題も顕在化してきており、かつ、組合員の在宅勤務の働き方の希望も様々です。こうした点から、在宅勤務に関しては、さらなる実態把握と対応策の検討が必要になると考えます。

今後は、「ウィズ・アフターコロナ社会のワークスタイルとキャリアに関する研究会（仮称）」（2022年度発足）において、本調査で得られた結果をもとに、ウィズ・アフターコロナ社会における「ワークスタイル」や「キャリア」、「労働組合の活動」などについて、さらにヒアリング調査を交えながら、分析・研究をすすめます。研究結果については、別途報告をし、各種政策の検討にも活用します。